

## 応用化学系の将来に向けて

応用化学系学系長 河口 昭 義

今日、大学を騒がせている二つの外国語がある。一つはJABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) すなわち日本技術者認定機構とCOE (Center of Excellence) (正確には「二十一世紀COEプログラム」) すなわち世界的教育研究拠点の形成のための重点的支援) である。前者は、技術士教育プログラムを修了した学生には、技術士第一次試験と同等の資格、すなわち「修習技術者」の資格を与えるためのものである。JABEEを国際的に認定し、技術者を国際的に認定しようとするのが今の流れで、そのための大学教育が求められるようになってきた。われわれ応用化学系では、現在これへの対応をとってはいないが、教育カリキュラムの改革を含め、検討を迫られるときが来るであろう。後者のCOEは、字句の通り、世界的な教育研究の拠点を形成するための資金的な支援を意味している。指定さ

今では先端の研究をするのに必要な装置を手に入れることができ、世界に問える研究を進めることができるまでに充実した。理工学部の大規模施設の中には、日本の大学では珍しい小型放射光施設がある。設置当時はどのようになるか不安はあったが、応用化学系の先生を含め、理工学部の先生方の努力で、この装置でしかできない研究について順調に成果を上げてきており、この施設が注目されるようになった。

応用化学系では、平成十二年に化学生物工学科が、平成十三年には応用化学科が、教育環境・方針・研究施設さらには研究業績についての外部評価を受け、評価委員の方々からは好意的な評価を得た。外部評価の結果、機器・施設の整備状況からCOEに名乗りを上げることが可能な状況が整ったと思えるようになった。しかし、施設は整ってきたものの、人材育成の面で必ずしも十分と言えない現状がある。教育面の展開、施設のさらなる拡充を念頭において、本学理工学部の特色の一つである小型放射光施設を拠点のシンボルとして、応用化学は「化学・材料化学」、

化学生物工学科は「生命科学」分野で「二十一世紀COEプログラム」の拠点となるべく、これに申請をした。各分野合わせて四百六十余ものグループからの申請があるとのことであるが、われわれがそれぞれの分野でその一つに選ばれることを願っています。前総長時代に、意味合いは異なるが、理工学部をマサチューセッツ工科大学並みにすることを目指すとして、COEという言葉がしばしば言われてきたことを思い出す。今回の申請の結果が何れであれ、本学応用化学系はCOEに相応しい学科に成長してきたことを応化会会員の皆様にはご理解願いたい。これからも、われわれは改革に向けて更なる努力を惜しまない積りであり、会員の皆様には今後ともご支援をお願いする次第である。

私が本学に赴任したのは一九九四年で、この年はBKCが発足した年である。その時点では、私の研究室にはほとんど設備がなくてCOEなどということをお口にしているものも憚られる状態であった。当時、卒業研究を行った学生諸君には気の毒であったと思ひ返される。以来、九年余りが経過し、その間、応用化学系の総ての先生は、研究設備の充実のために涙くましい努力をしてこられた。科学研究費、ハイテク資金その他の資金を得て、

「修習技術者」の資格を与えるためのものである。JABEEを国際的に認定し、技術者を国際的に認定しようとするのが今の流れで、そのための大学教育が求められるようになってきた。われわれ応用化学系では、現在これへの対応をとってはいないが、教育カリキュラムの改革を含め、検討を迫られるときが来るであろう。後者のCOEは、字句の通り、世界的な教育研究の拠点を形成するための資金的な支援を意味している。指定さ

ハイテク資金その他の資金を得て、



# 地域別活動推進委員会の活動状況について

応化会副会長  
地域別活動推進委員会

委員長 二上正勝  
(昭和二十七年卒)



平成十一年一月、理工学部創立六十周年記念校友大会の開催を契機に理工学部同窓会連絡協議会が結成され、理工学部全体の同窓会組織として、学系、地域、年代を越えて、より広く積極的な活動が行われる体制になりました。

平成十三年六月十七日に開催された第七回応化会総会において承認された応化会年会費納入方法の一部変更、すなわち平成十二年度以降の新卒生から適用の終身会費制の新システムも連絡協議会が理工学部全体を纏めて実施する事により導入が可能となりました。

現在、立命館大学は、びわこ・くさつキャンパスと、衣笠キャンパスからなり、いずれも素晴らしい施設が整えられ、キャンパスライフを満喫できる環境が整っています。

ます。更に、外観ばかりでなく産官界、学会、一般社会での評価も大いに高まり、入学志願者数も躍進していることはご承知と思います。この素晴らしい母校の知名度を一層向上させ、この大学で学んだことを誇れる存在とするため、応化会の活動を一層充実すべきと考えています。

過去の同窓会活動は、それぞれの出身研究室、卒業年度生が核となつた集団を中心に運営されてきましたが、これからの同窓会活動の基盤は、大学(学校法人)、先生方(教職員)、卒業生、在校生を視野に入れた全体的なつながりを持つ組織としての位置付けが必要であります。理工学部同窓会連絡協議会が結成されたことは、応化会の活動を通じて、単に応化会卒業生としてではなく立命館大学理工学部卒業生として広く社会にアピールしていくことが可能になった点で、大きな意義があると思えます。

応化会のさらなる発展を目指して、田村会長のもとでの企画運営に参画し、その実現に協力して行きたいと考えています。その手始めとして、田村会長の提案である、全国各地に在任する応化会同窓生の交流をさらに密にすべく、地域別活動事業を強化し、将来的には幹事会、総会で承認されました。平成十三年五月二十六日に開催された二〇〇一年度第一回幹事会で、私が地域別活動推進委員会の委員長に任命され、谷口・立木両副会長、篠原・松尾両常任幹事・松田庶務幹事を委員として委嘱して、その準備を進めてきました。

第一弾として、関東地区懇話会・懇親会(仮称)の準備会を、平成十四年三月二十六日(火)に東京で行い、実行委員長に芦崎氏昭

三十三)をお願いし、実行委員に石橋(昭二十七)、谷(昭三十八)、戸谷(昭三十九)、井口(昭四十)、今多(昭四十三)、杉井(昭四十三)、城戸(昭四十六)、山内(昭四十八)、柏井(昭四十九)、長村(昭五十一)、西名(昭五十八)、清水(昭六十二)、江越(平二)、森川(平二)、高橋(平九)、怒和(平十二)の各氏をお願いし、このような地域別懇親会などの活動準備に取りかかっています。開催日時は、平成十四年十一月九日(土)午後の予定です。

前段にも書きましたように、われらが母校立命館大学がどのような発展をし、社会や学会でどのような評価を得ているか、恩師、その後輩で研究室で活躍の先生方の実状や私たちが抱える社会における課題を討論したりする場を期待しております。その他の企画については、実行委員会で行われていますが、応化会にふさわしい内容で行いたいと思っています。次に東海地区懇話会・懇親会(仮称)であります。来年(平成十五年二月ころ)の開催予定で、先ず実行委員長依頼から始めて実行に移してゆきます。平成十四年

度は、この二地域の予定ですが、次年度以降は四国、中国、九州、北海道などの地域に在任する卒業生との交流を深めるべく、現地の意向に沿った設定を予定しています。こういった地域別活動を積み重ねてゆくことで、会員の方々の心の中に応化会という存在が定着し、育つてゆくものだと思います。応化会の発展は、会員の方々の参加が基本になります。是非とも会員多数のご出席とご支援をお願い致します。



# 立命館大学

## 写真研究会OB会の活動

黒田 豊  
(昭和三十一年卒)

昭和二十五年に理工学部の写真に興味を持つ学生たちが衣笠学舎で活動できるよう考えた、若き技術者の卵は学友会第一学術部内に写真研究会を創設して五十二年の時が流れました。

笠学舎の、写真を科学しながら作品も創ろうとする「写真研究会」の二つのサークルが誕生し、この流れが今も続いています。

平成五年、校友会のご好意で理工学部の草津学舎への全面移転を記念する見学会に誘い合わせて参加した昭和三十年代のOB達が発起人となり、創設者の木村碩志氏

を会長に平成六年二月十一日、立命館大学写真研究会OB会を「親睦を第一義」に発足させ来年は十周年を迎えます。

発足当初の二、三年は、年一回開催する総会で途絶えていた旧交をよみがえらせたり、草津学舎・理工学部の最新設備を見学し隔世の感のある木造の実験室や暗室を懐古し語り合ったり、現役の若い写真展を、その会期中に定例総会を開催する写真展を催します。

カメラハイクと呼ぶ行事は近畿圏在住の会員と応化会の会員を含む友人をゲストとして迎えて二十名程度が集い春と秋に年二回景勝地や社寺・公園を楽しく歩いて探訪する会合を開催しています。

これらの会合の都度会食して懇親を深めるように心がけるとともに、現役の写真研究会幹部二、三名を招待して後輩会員とも交流し、現役会員の写真展開催や学園祭の企画などにもアドバイスや支援を実施しています。



2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

を会長に平成六年二月十一日、立命館大学写真研究会OB会を「親睦を第一義」に発足させ来年は十周年を迎えます。

発足当初の二、三年は、年一回開催する総会で途絶えていた旧交をよみがえらせたり、草津学舎・理工学部の最新設備を見学し隔世の感のある木造の実験室や暗室を懐古し語り合ったり、現役の若い写真展を、その会期中に定例総会を開催する写真展を催します。

カメラハイクと呼ぶ行事は近畿圏在住の会員と応化会の会員を含む友人をゲストとして迎えて二十名程度が集い春と秋に年二回景勝地や社寺・公園を楽しく歩いて探訪する会合を開催しています。

これらの会合の都度会食して懇親を深めるように心がけるとともに、現役の写真研究会幹部二、三名を招待して後輩会員とも交流し、現役会員の写真展開催や学園祭の企画などにもアドバイスや支援を実施しています。



2001年11月18日(日) 2001年 秋のカメラハイク 於・金剛輪寺山門前

お言葉を頂戴しています。写真研究会に毎年入会する人たちの数から類推すると立命館大学写真研究会・OB会の会員資格者は(写真研究会会員であった卒業名簿に記載されている人)八百名程度かと思われるが、現在消息を把握できた会員は百八十名です。六十才の定年を越えて人生の余暇を楽しめるようになった人は五十名弱でOB会活動に常時参加できる人は三十名程度です。会員は北海道から九州まで全国に散らばっているため、写真展と定例総会の案内と定例総会で決定した年間活動計画は全員に通知し、カメラハイクや写真展開連の通知は行事への参加可能性を判断し発信しています。

員を捜すこと、会合への参加率を向上させ、より活発な活動を展開するためにOB会のインターネット・ホームページの開設を実現し、会員相互の交流にも活用したいと思っております。

立命館大学写真研究会OB会が誇れること、それは会合に全国から集う会員は和気あいあい、別け隔てなく、旧交を温めあっていることです。

平成十五年二月二十日(木)、二十六日(水)京都市中京区河原町三条上る西側ツツミ堂八階フォトギャラリーにてOB会発足十周年記念写真展を開催いたしますからお立ち寄りいただきたく存じます。

雑然とした紹介になりましたが、OB会発足十周年記念写真展の開催をお知らせして我々OB会の活動状況のご報告とさせていただきますました。

（お願い、立命館大学写真研究会OB会からの連絡受信無き会員様へご連絡下さい。）

連絡先 六〇五〇八二二  
京都市東山区上弁天町四四七

TEL/FAX  
〇七五一五六一一二四二四

# 写真で広がる出会いの場

## 岸 要

(昭和二十七年卒)

衣裳学舎に在学当時から写真研究会会員の方々の組織に、立命館大学写真研究会OB会があります。平成十年、応化会が会員相互の

一層の親睦を計るため趣味の会話を始めたとき、写真の愛好者はこのOB会にゲストとして参加させて戴くことになりました。

毎年春と秋にカメラハイクを開催されますが正会員の皆さんの暖かいお人柄に甘えて、私は全日本写真連盟(全日写連)の親しい写真仲間も数人誘ってお世話になっています。

二年前、私は全日写連京都府本部に入会しましたが、傘下の新クラブ「さわやか27」の代表・事務局を預かることになりました。新参のクラブですが発足以来順調に

出身者が私のほかに二人います。小林縫三さん 理工・土木 昭北川良子さん 文学部 昭四十五年卒

会員の方々の組織に、立命館大学写真研究会OB会があります。

このOB会にゲストとして参加させて戴くことになりました。

全日写連の会員に、写真研究会OB会カメラハイクでお馴染みの岡本明さん、杉本英夫さんたちがおられます。

今年六月春のカメラハイク梅宮大社・天龍寺探訪に三人の仲間を誘って参加しました。その一人、大野正子さんは初参加なのにOB会の木村賢勇さん(昭三十三年卒)と親しげに話しています。聞けば、木村さんは大野さんの従姉妹さんのご主人で、お二人とも思い掛けない出会いに吃驚したとい

うことでした。

七月に全日写連京都府本部で一度の総合写真展「京都写真サロン」「京都府本部展」がそれぞれ京都市美術館別館および京都府立文化芸術会館で催されました。多く同窓の方々にご来場戴きました。岡本さんと黒田さん、それに私と同期の級友宇野光造さん、中森恒雄さんたち。ぐつと若い後輩は昨年院卒の山田修司さん、来院院卒予定の馬場由実子さん、このお二人は私の元勤務先三洋化成工業の奨学金制度を受験される際、担当教授のご依頼で事前に少し会社の概況など話させて戴いたご縁です。

真打ちの出番は最後と申します。白石教授ご家族、中村教授ご夫妻、さらに、元理工学部長鈴木啓三名誉教授の諸先生方にもご来駕戴きました。

写真を通じて、諸先生方始め多くの方々にご交遊を戴き本当に嬉しく感謝しています。写真に関心をお持ちの方は応化会事務局にご連絡下さい。

## 企画運営委員会報告

### 東 正弘

(昭和四十一年卒)

応化会・企画運営委員会は、平成十年より活動を始め、今年で五年目となります。応化会ニュースおよび総会などで活動報告をさせて頂いていますので、皆様ご存じのことと思います。応化会会員の

親睦を目的としてゴルフ・山歩き、写真の趣味をお持ちの方々がそれぞれ年二回集い、楽しく親密な交友関係が出来ています。

ゴルフ・山歩き・写真の趣味をお持ちの方は、応化会事務局(武藤さん)へ登録頂ければ開催のご案内を致します。

事務局電話  
〇七七(五六二)二六五八  
FAX  
〇七七(五六二)二六五九

第七回「ゴルフ懇親会」  
平成十三年十月十三日  
西村定氏(四十一年卒)が幹事となり、奈良白鳳カンツリークラブ

電話(〇七七)五六一二二六五八

で十六名の参加者があり、青山雅俊氏（四十年卒）が優勝されました。

### 第五回「六甲山徒行会」

平成十三年十一月十日

川口士郎氏（四十年卒）をリーダーに、男性七名・女性一名の参加者があり、六甲道前から六甲山に登り有馬温泉へ出て温泉で疲れを癒す事が出来ました。帰りは三宮へ出て「ピアレストラン」で反省会を行いました。

### 第八回「ゴルフ懇親会」

平成十四年三月九日

青山雅俊氏（四十年卒）が幹事となり、レックスワンカントリーで十二名の参加者があり、浦野利巳氏（五十二年卒）が優勝されました。

### 第六回「飯道山徒行会」

平成十四年五月十一日

篠原長政氏（四十三年卒）をリーダーに、男性十名、女性一名の参加者があり、貴生川駅から飯道山へ登り紫香楽宮跡を経て貴生川駅に戻って来ました。貴生川の「地ビールレストラン」で反省会を行

い楽しい一日でした。

以上が恒例の行事報告ですが、応化会も平成十五年に二十周年を迎えます。この節目となる二十周年を皆様とどのようにしてお祝いし、懇親を深めるか当委員会でも検討しています。

母校・理工学部は、社会の変革に先駆け、素晴らしい躍進を遂げ各界から高い評価を受けていることは皆様もご存知のことと思いますが、応化会の諸行事にご参加して頂き、ぜひ一度変革している母校の姿を見て頂きたいものと思っています。

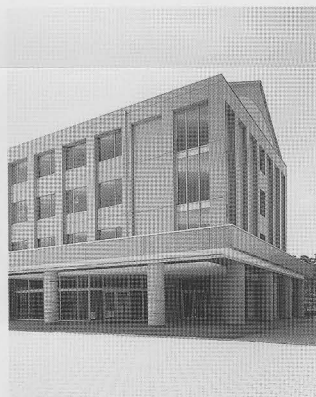
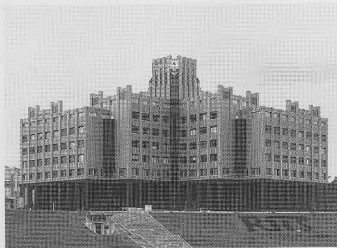
二十周年は平成十六年の総会開催時に、併せて盛大にお祝いすることに五月二十五日の幹事会で決定しましたので、ご案内を申し上げます。折りには万難を排しご参加頂きますようお願い申し上げます。

## BKC案内

岡田 豊

（昭和五十四年卒）

一九九四年四月の理工学部移転に伴い開設されたびわこ・くさつキャンパス（BKC）は、その後理工学部関係でも「学術フロンティア共同研究センター」や「ローム記念館」等が建てられ、目を追って変化充実しています。しかし、最も大きく変化したのは、一九九八年四月の経済・経営学部の移転です。



アドセミナリオ

正門から入り歩いていくと「フロンティアアベニュー」、セントラルサーカス」を経て、「ウエストウイング」に到達します。この左手に「コアステーション」「イーストウイング」が並んでいるのは開設時のままで、「イーストウイング」の六階に応用化学系の事務室があるのも変わりありません。

さて、話を「フロンティアアベニュー」に戻します。その右に「クインスタジアム（グラウンド）」があるのも開設時のままで、大きく変わったのは、その奥の時計台のある象徴的な建物です。経済・経営学部の基本棟である「アドセミナリオ」という二つの教室棟が建てられています。これらの教室は、主に経済・経営学部の授業に使われますが、一部は理工学部も使用しています。「キャンパスプロムナード」という名前の道をはさんだ向い側には、主に生協の施設がある「リンクスクエア」があります。

## 応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科(旧化学科)と化学生物工学科(旧生物工学科)の二学科から成り、合わせて三十三名の教員が在籍しています。今年度は新しいスタッフとして、前田良輔助手と斧田宏明助手をお迎えしました。また、昇任人事に關しましては、今村信孝、久保幹、白石晴樹、玉置純の各先生が助教から教授に、溝口正生先生が助手から講師に昇任されました。



前田良輔先生

### 新任の先生から一言

本年四月より、応用化学科に二号助手として任用頂きました。専門は化学工学(生物工学)で、これまで主に「動植物由来キナナーゼの精製とその反応特性に関する研究」および「シリカゲル上の界面活性剤層への酵素の吸着に関する

研究」を行って来ました。今後は、「高圧力下での酵素反応」ならびに「高圧力下におけるタンパク質の分光学的構造決定」という二大テーマにチャレンジし、タンパク質の機能と構造に関する興味深い知見を模索しながら、研究に取り組みたいと思っております。

また、様々な高圧力技術やタンパク質の分子レベルでの考え方といった、研究室の歴史と共に蓄積された厚重な知識の一端を日々勉強させて頂いております。立命館大学の教員として、甚だ未熟ではありますが、諸先生方をはじめ、先輩諸氏のご指導、ご鞭撻を賜りながら精進する所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

### 略歴

一九九三年 同志社大学工学部化  
学工学科卒業  
一九九五年 同志社大学大学院工  
学研究科工業化学専攻博士前期  
課程修了  
一九九八年 同志社大学大学院工  
学研究科工業化学専攻博士後期  
課程修了博士(工学)取得  
一九九八年、二〇〇〇年 ダイセ  
ル化学工業(株)勤務

二〇〇一年、二〇〇二年 同志社  
大学工学部物質化学工学科博  
士研究員  
二〇〇二年 立命館大学理工学部  
応用化学科二号助手



斧田宏明先生

本年四月より、応用化学科二号助手として就任いたしました。専門は無機材料化学で、種々の希土類リン酸塩の合成と物性に関する研究を行って来ました。加熱など

による脱水縮合や加水分解によって生成する希土類(縮合)リン酸塩を明らかにし、得られた塩について触媒的な物性を中心に評価してきました。また、これらの合成や物性に対するメカノケミカル効果についても検討してきました。現在は、遷移金属リン酸塩生成系に対し、希土類元素を加え、生成反応や物性に及ぼす影響を調べています。未熟者ではありますが、努力する所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願

いします。

### 略歴

一九九七年 神戸大学工学部応用  
化学科卒業  
一九九九年 神戸大学大学院自然  
科学研究科博士前期課程応用化  
学専攻修了  
二〇〇二年 神戸大学大学院自然  
科学研究科博士後期課程分子集  
合科学専攻卒業 博士(工学)  
取得  
二〇〇二年 立命館大学理工学部  
応用化学科二号助手

### 年会費納入への協力お願い

平成十四年度年会費(平成十五年三月三十一日迄)二千元を納入下さいませようお願い申し上げます。過年度分の年会費の納入、未納入に關係なく平成十四年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。会員の皆様は、会費納入状況を封じています。平成十四年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。なお、平成十

一、十二、十三年度の完納者には、今回の名簿発行の際に無料配布の予定です。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代

えさせていただきます。  
(注・平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。)

### 事務局だより

#### 応化会会員名簿

二〇〇三年版発行の予定

去る五月二十五日に開催された二〇〇二年度応化会第一回幹事会で、今回の応化会会員名簿は二〇〇三年版として平成十五年三月発行の予定になりました。  
一 正確な名簿を皆様にご提供出来るよう、事務局では鋭意作業を進めています。  
住所、勤務先等消息変更のあつた方は至急応化会事務局にお知らせ下さい。なお親しい方々の消息変更もお知らせ戴ければ幸いです。



平成13年度(2001年度)事業報告

I. 諸事業

- 1) 徒行会の開催(本年度1回目) 2001年4月28日
- 2) 在校生への“会員名簿”配布 2001年5月
- 3) 懇親ゴルフの開催(本年度1回目) 2001年5月19日
- 4) 全会員への通信(総会案内) 2001年5月22日
- 5) 総会 2001年6月17日
- 6) “2001年3月卒業生名簿”作成 2001年9月
- 7) 応化会ニュースの発行 2001年10月
- 8) 全会員への通信(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他) 2001年10月
- 9) 懇親ゴルフの開催(本年度2回目) 2001年10月13日
- 10) 徒行会の開催(本年度2回目) 2001年11月10日
- 11) 懇親ゴルフの開催(本年度3回目) 2002年3月9日

II. 総会議

- 1) 総会 2001年6月17日
  - 第7回
- 2) 幹事会
  - 第1回 2001年5月26日
  - 第2回 2001年10月27日
  - (新年会) 2002年2月23日)
- 3) 各種委員会
  - 役員選考委員会 2001年4月28日
  - 企画運営委員会 2002年3月30日
  - 応化会ニュース編集委員会 2001年7月5日・9月10日
  - 名簿管理委員会
  - 地域別活動推進委員会 2001年10月27日
 (関東地区懇話会・懇親会(仮称)実行委員会 2002年3月26日)

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2001年10月28日
- 2) 応用化学系卒業・終了記念パーティー 2002年3月22日

IV. その他

- 1) 応化会ホームページの製作  
(<http://www.ritsumei.ac.jp/se/rc/SECT-HP.html>)よりお入りください)

平成13年度(2001年)応化会会計決算報告

一般会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	1,608,620	1,608,620
会費(一般)	3,000,000	2,230,000
学生会費(学生)	2,200,000	2,190,000
寄付金	300,000	188,500
雑収入	5,000	541
合計	7,113,620	6,217,661
支出の部	予算額	執行額
総会開催費	550,000	131,128
事業等補助金	200,000	104,093
会議費	200,000	128,659
印刷費	1,000,000	615,825
郵送料	2,000,000	1,242,960
人件費	500,000	491,000
事務局費	50,000	34,321
雑費	100,000	8,080
拠出金(特別会計へ)	1,000,000	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	100,000
在学生活動援助費	200,000	200,000
振込手数料	100,000	59,339
予備費	1,113,620	0
合計	7,113,620	4,115,405
次年度繰越金		2,102,256

特別会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	3,955,052	3,955,052
拠出金	1,000,000	1,000,000
名簿売上(一般)	10,000	4,000
名簿売上(学生)	10,000	0
名簿荷造送料	10,000	2,000
名簿広告掲載料	0	0
雑収入	1,000	1
合計	4,986,052	4,961,053
支出の部	予算額	執行額
名簿出版費	0	0
名簿荷造送料	50,000	0
人件費	500,000	185,000
事務局費	200,000	51,669
予備費	4,236,052	0
合計	4,986,052	236,669
次年度繰越金		4,724,384

平成14年度(2002年度)事業計画(案)

I. 諸事業

- 1) 在校生への“会員名簿”配布 2002年4月
- 2) “2002年3月卒業生名簿”作成 2002年9月
- 3) 応化会ニュースの発行 2002年10月
- 4) 全会員への通信(応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他) 2002年10月
- 5) 関東地区懇親会 2002年11月9日
- 6) 東海地区懇親会 2003年2月
- 7) 名簿の発行 2003年3月
- 8) 徒行会の開催(1回:2002年5月11日、以降未定)
- 9) 懇親ゴルフの開催 2002年11月7日

II. 総会議

- 1) 幹事会
  - 第1回 2002年5月23日
  - 第2回 2002年10月
- 2) 各種委員会
  - 企画運営委員会
  - 応化会ニュース編集委員会
  - 名簿管理委員会
  - 地域別活動推進委員会

III. 在校生への援助活動

- 1) 研究室対抗ソフトボール大会 2002年10or11月
- 2) 応用化学系卒業・終了記念パーティー 2003年3月22日

平成14年度(2002年度)応化会予算

一般会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	2,102,256
会費(一般)	2,500,000
学生会費(学生)	2,200,000
寄付金	300,000
雑収入	5,000
合計	7,107,256

支出の部	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	500,000
会議費	200,000
印刷費	1,000,000
郵送料	1,500,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	2,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	657,256
合計	7,107,256

特別会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	4,724,384
拠出金	2,000,000
名簿売上	10,000
名簿荷造送料	10,000
雑収入	1,000
合計	6,745,384

支出の部	予算額
名簿出版費	1,300,000
名簿荷造送料	50,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	4,695,384
合計	6,745,384